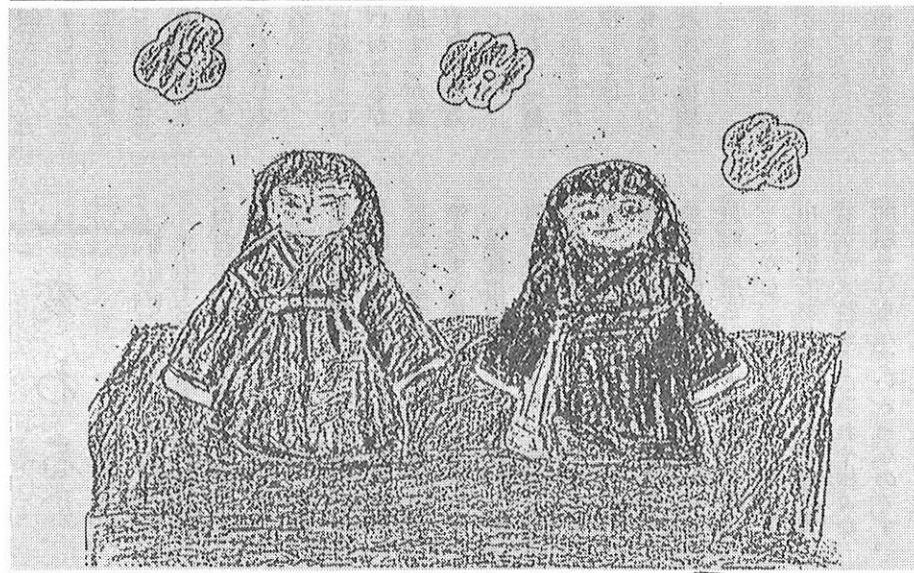


# 光の3

発行／社会福祉法人 光の子どもの家  
 編集／光の子 編集委員会  
 〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277  
 TEL／0480-72-3883  
 振替／東京3-128022  
 印刷／(株)ドモン企画



2年 まえ そ たくや

## おひなさま

社会福祉法人  
 光の子どもの家  
 養護施設

イラクのフセイン大統領はマホメットの子孫だそうだ。国民に絶大な信頼を得ているが、家系がモノを言っているのかもしれない。

親の七光という事は、彼の国でも通じることなのであろうか。そういえば、キリストもダビデの血筋ということで、マタイは苦心して系図をつくっている。相応しくないと思われる四人の婦人まで繰り入れている。

ともあれ系図に権威や品格が秘められて、予言の成就とともに人々に尊敬の念を起こさせようとの事なのだろうか。

私自身は、聖霊によつて誕生されたキリストとあつては、このような系図はどうでもよいと思つてゐる。

だが一方下世話に血筋は争えないとも言われる。

わたしは紀州田辺、兵庫三田、金沢藩主の子孫という方々に、近づきを得てゐる。世が世ならば近寄りがたい人々である。

## 血すじによらず

(ヨハネによる福音書  
 第一章十三節)

理事長 福島勲

一見してすぐにどうというわけがないが、どことなく鷹揚で氣品がありそれでいて尊大ぶつたところもない。

徳川家の姫が嫁して赤門が許されたが、嫁入り道具は一切倉に収めて、それに酷似する品を別に作つて使用したと、ある本で読んだ。

金沢の殿様の子孫の方に聞いてみたが、赤門は確かに、自分の貰つた倉にはそれらしいものはなかつた、兄の方の倉の事は知らないがとの返事だった。

パウロには信仰の世界で家系や血筋など全く問題でないといひながら、そういう事を好む人たちには、自分の事を言わして貰うと、ローマの市民権があり、純粹のヘブル人、ベニヤミン族の出で、立法の上ではパリサイ人と並べ立てておいて、しかしこれらの人間の価値あるものと思つていたもの切つてキリストを知る事の絶大な価値の故に、塵あくたのように思つてゐると言つて





## 子どもたちの季節

仙道家

加津子が帰つてくるまで一人で寝ていなければなりません。四畳半の間仕切りを「今日はここを開けて寝て・」と言います。けれどもそれをいつも「絶対嫌だ!」と大騒ぎをするのは決まって年長組の悠子ちゃんです。「だつて悠子ちゃんのお部屋は、こうなんだもん!と間仕切を閉めていないと気になつて仕方がありません。萌季はしかたなく一人で布団にもぐり、電気を消して・。数秒後、シクシクすり泣く萌季ちゃんです。「あツ、萌季ちゃん泣いてるよ」に、「ん?」とそつけない悠子ちゃんです。「悠子ちゃんのお布団に呼んであげたら?」「ん?」「悠子ちゃんは淑子さんがお出かけの夜も誌美ちゃんが隣にいるけれど、萌季ちゃんは、加津子ちゃんが勉強会に行つてゐるから一人ぼっちで寂しいじゃない?」「・・?」「ねエ、加津子ちゃんがくるまでこつちに萌季ちゃんを呼んで一緒にしようよ?」「そうだね・。」と起き、間仕切を開けて、「萌季ちゃん、いっしょに寝ようよ。」萌季ちゃんをつれてきて二人で悠子ちゃんの布団にもぐります。ちよつと前まで妹と一緒に私の布団に入り込んでいた悠子ちゃん。開ける、閉める、と、さつきまでケンカしていた二人。ニコニコ顔で布団にはいつています。

ちよつとしたことで、輝く天使のようにも、真っ黒な悪魔のようになる子どもたちです。いつも天使のようでいられることが多いですが、悪魔のようにしてしまうことの多い私のかかわりを改めて思い直すこの頃です。

子どもたちは一つ一つ階段を上り成長していきます。

また一つステップしようとしている子どもたちのこの季節に、改めて思い直させられた私が、どこまで子どもたちの輝きをつくるきっかけとなることが出来るのでしょうか?・。

五来 淑子

彼と担当の竹花保母との間に、甘えとその受容という闘いのような日々が続いていった。六年生目前の二月中旬、彼は竹花保母の膝に抱かれてオヤツを食べる数日があった。同じ家で暮らしている他の小さな子どもたちに混じつてである。

保母との入浴、保母との添い寝などの際限のないような甘えの要求が次々に表現され、それをお安心して一緒にいられる生活や関係づくりをめざしていた。学校などでは年中行事になつてゐる担当替えを、生活場面でする事の子どもに与える影響の重さを痛感させながら。

学校でも教師との関係に甘えの要求が、掃除など仕事や課題からの逃避、版画の時間に頗に墨をつけてふざけたり、宿題や提出物の不提出などで表現され、特に、一年一クラスの小規模校で同学年の光の子どもの家から三人の子どもと、ことある

強い試みに私たちを見舞われた。担当者と家を変わって二ヶ月後、彼は小足のオヤツを近くの小さなスーパーで買った。五〇〇円を持たせてレシートをなくさないよう注意して出した。帰ってきてレシートをくれなかつたと言うのである。「じやあ別の紙に書いておいて」と竹花は言つておいた。何と、オレンジジュース三〇〇円と/orあつた。

しつかりリュックにしまつてあるジュースを出させて見ると九八円の値段がついている。結果、二〇二円の使途不明金である。それは、お菓子を買って食べたという。お金の大切さ、欲しい物は保母に言うよう話して終わる。

実際子どものオヤツは食器戸棚の中に入つていて、自由にとつて食べられるようになつていて

るというのに・・・。  
それから二週間足らずのある日、夕食後に、彼は水彩の絵の道具を、いつもお世話になつている文房具店に買いに行つた。帰りが遅いので指導員が迎えに行き、途中で出会うと、おつりをお店に忘れてきたと言う。急いで文房具店に車を走らせた。しかし、置いたと言う所には何もない。お店のおばさんも一緒に探してくれたがない。

五〇〇円札で一八〇〇円の買い物をし、三二〇〇円が行方不明になつた。指導員がよく聞いておいて」と竹花は言つておいた。何と、オレンジジュース三〇〇円と/oあつた。

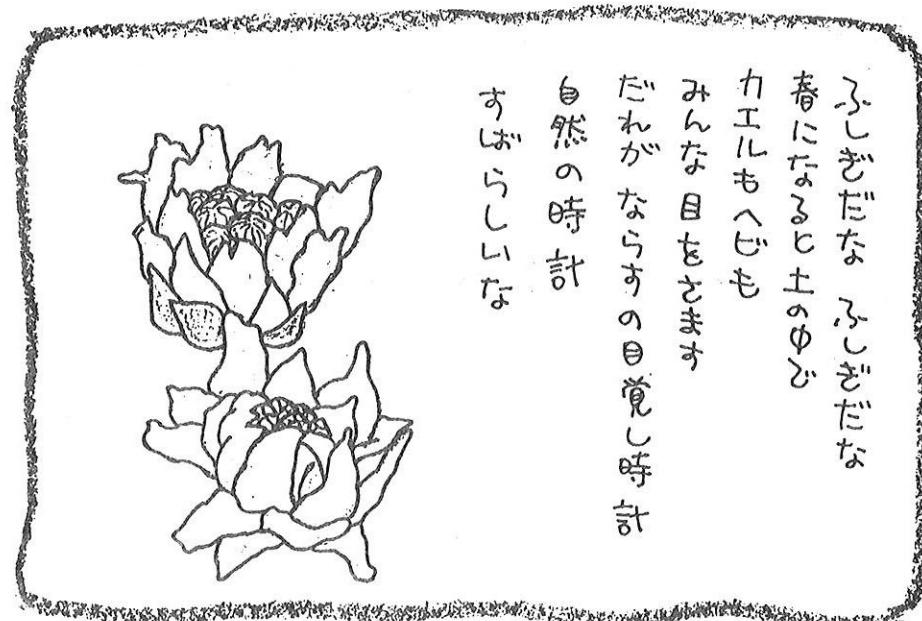
これについては、一緒に暮らしていくにはしていいことといふべきことがあり、そのルールを守れないと一緒に暮らしれないことを心を尽くして話し、ご迷惑をかけたお店に菅原と竹花が心から謝つたようすも伝えた。

彼の希望で年度の始めから地城の少年サッカーラブに入つた。練習に遅れ、体調不良を訴えるなど消極的な態度になつたのも同じ時期に重なつていて

る。嫌だつたら辞めればいいのだが、辞めたくはないと言う。竹花が練習を見にいつて励ますなどで、年度の終わりには準レギュラーで時々試合で活躍するようになり、六年生ではレギュラーの位置を確保した。

学校での位置や、教師に持たれたマイナスのイメージはなかなか変わらない。スポーツでは、まぐれでもうまく行くと評価は早い位置もはつきり変わる。サッカーをテコにした関係の確立を辛抱強く試みていった。悲しい事件やもうダメかなと思えるようなことどもの連續したこの数年間は、信じられるから信じるのではなく、信じられないから、信じられるようになるために、信じるように全力で努力し続けた日々であつた。

応えてくれるかどうか分からぬから信じる。信じて賭けたことと違う結果が出た時こそ、そのマイナスの全てを負う事が本当の意味で信じる事である。彼は今、高校進学をめざしての学習と、中学のサッカーチームの最後の年を燃えるようにスパーし始めた。(この項終わり)



ふしぎだな ふしぎだな  
春になるじ土のゆび  
だれがならすの目覚し時計  
みんな目をさます  
力エネルギーへじも

すばらしくな  
自然の時計

**日  
誌  
抄**

一九九〇年十二月一日

十六日 栗橋ボーカルスカウト主催餅つき大会。すてきなクリスマスプレゼントもたくさん。

十二月一日 職員の中村、檜山

が朝早く出発し、相模原にいる五木田前職員も駆けつけ、

今年は伊豆の山で作ってくれたクランツやリースを、子どもたちが眠つてから玄関に、

食堂に飾つて明日を待つ

○栗原忠さん今月も定番のお勵まし。ありがとうございます。

二日 第一アドヴェント。昨年春から礼拝ご奉仕の弘前学院聖愛高校の嶺宗教主任の楽しいお話の礼拝と、夕食を。

六日 加須市在住の新井東京家政大教授が乗用車をご寄贈。

○東京家政大有志の皆さんよりお励ましをいただく。感謝。

○三沢さんより食品をたくさん。

九日 第二アドヴェント。

十日 女子学院高校より手作りのクリスマス・カードを。

十一日 冬休みの帰省に向か、家庭訪問をこの日から。

十五日 東大宮教会青年会が中心の浦和駅前で恒例となつた第六回街頭募金活動を二三日まで嚴寒の中を毎夜。感謝。

のお客様をお迎えして。

○向後さんよりこの冬の灯油を。

二八日 加須の梅沢さん帰省できない子どもたちにお年玉を。

二九日 お正月帰省を開始。

三〇日 栗橋町のピエロさんより、パンとお年玉を。感謝。

三一日 年越。剣道越年稽古。

一月一日 初日の出を筑波山で、元旦礼拝と挨拶を全職員と

子どもたちで。

四日 正月氣分をぶつ飛ばし、三学期もがんばろう会。荒巻、北畠さんの腹話術と奇術も。

九日 大塚さんより衣類を。

十九日 田代さんより竹刀を。

二〇日 林輪業より机を。感謝

二一日 江森へヤーサロン散髪せていただきます。事務局。

二三日 第四アドヴェント。

○東大宮教会学校クリスマス礼拝と祝会。楽しく、暖かく。

二四日 クリスマス・イヴ。キヤンダルサー・ヴィスを厳粛に。

○眠りに落ちてサンタクロースが保母手作りのプレゼントを。

二五日 クリスマス・ペーパージェント礼拝と祝会を。お友だち、久喜高校の音楽部、たくさん

**反  
射  
光**

移植して二年目

のこぶしの蕾も膨らみ復活の春

を讃美しています☆七回目の年

度を揃つて迎える事が出来まし

た。皆さまのお勵ましのお支えに

よるものと心から感謝致します

☆私たちが願つたよりもはるかに祝福に満たされた復活祭を迎

えることが出来ました☆しかし、これから私たちの本質が問われるときを迎えます☆祝福に慣れ、感動や感謝の心を失つては最初の祈りの質さえ問われます☆慣れでは決して本当の養育は出来ません☆親や家族と共に暮らせない悲しみは「慣れ」られるようなものではないからです☆お互いの願いや痛みや喜びの表現を「慣れ」はやり過ごしてしまいます☆いつも鋭い感性をもつて仲間の声を願いを聴き、その実現や必要を為せなければ、小さい弱い子どもの寂しさの表情をとらえることは決して出来ないからです☆隣り合う者の声を、声なき声を聞き分ける耳を、心を持ち続けられるように祈りつつ年度を歩き始めます☆この年度も変わらぬご支援を！（哲）